

《開幕》Chim ↑ Pom展：ハッピースプリング

2022年2月18日(金)ー5月29日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)ほか

日本で最もラディカルなアーティスト・コレクティブ、Chim ↑ Pom最大の回顧展

森美術館は、2022年2月18日(金)から5月29日(日)まで、「Chim ↑ Pom展：ハッピースプリング」を開催します。

アーティスト・コレクティブ^{*1}、Chim ↑ Pom(チンポム)は、独創的なアイデアと卓越した行動力で、社会に介入し、私たちの意表を突く数々のプロジェクトを手掛けてきました。作品の主題は都市、消費主義、飽食と貧困、日本社会、原爆、震災、スター像、メディア、境界、公共性など多岐にわたり、現代社会の事象や諸問題に対するメッセージ性の強い作品でありながら、その多くにはユーモアや皮肉も感じられます。

また、コロナ禍において顕在化している、感染症や疫病患者に対する差別や偏見、汚染や境界といった社会問題について、彼らは、それらを予見するかのようにこれまでの作品のなかで取り上げています。その示唆に富む課題提起は、今、まさに考察に値するといえるでしょう。

本展は、結成17周年を迎えるChim ↑ Pomの初期から近年までの代表作と本展のための新作計約150点を一挙で紹介する初の本格的回顧展です。展示は、都市と公共性、ヒロシマ、東日本大震災などのテーマに則して構成され、作家が一貫して考察する事象を浮き彫りにしつつ、活動の全貌を検証します。一方で、創意工夫に富んだダイナミックな展示構成により、作品に新たな光を当てることを試みます。

展覧会のサブタイトル「ハッピースプリング」には、長引くコロナ禍においても明るい春が来ることを望み、たとえ待ちわびた春が逆境のさなかにあっても想像力を持ち続けたい、というChim ↑ Pomのメッセージが込められています。先行きが不透明な今日、既成概念を打ち破る彼らの力強い作品は私たちの想像力を刺激し、共により良い未来を考える道標となるでしょう。

※1 複数のアーティストが協働する形態



《ビルバーガー》
2018年
ミクストメディア(にんげんレストランのビルから切り出された3階分のフロアの床、各階の残留物)
400×360×280 cm(左)、186×170×155 cm(右)
素材提供:にんげんレストラン、Smappa! Group、古藤寛也個人蔵(左)
Courtesy: ANOMALY(東京)
展示風景:「グランドオープン」ANOMALY(東京)2018年
撮影: 森田兼次

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

Chim ↑ Pom 略歴

2005年東京で結成。メンバーは、卯城竜太、林靖高、エリイ、岡田将孝、稲岡求、水野俊紀。世界各地の展覧会に参加するだけでなく、自らもさまざまなプロジェクトを企画する。2015年、アーティストランスペース「Garter」を東京、高円寺にオープン。また、東京電力福島第一原子力発電所事故による帰還困難区域内で、封鎖が解除されるまで「観に行くことができない」国際展「Don't Follow the Wind」(2015年3月11日～)の発案と立ち上げを行い、作家としても参加。同年、プルデンシャル・アイ・アワードで大賞を受賞。近年の主な個展に「また明日も観てくれるかな？」歌舞伎町商店街振興組合ビル(東京、2016年)、「ノン・バーナブル」ダラス・コンテンポラリー(米国、2017年)、「平和の脅威(広島!!!!!!)」アート・イン・ジェネラル(ニューヨーク、2019年)、グループ展に、「第29回サンパウロ・ビエンナーレ」(2010年)、「アジア・アート・ビエンナーレ2017」国立台湾美術館(台中、2017-2018年)、「グローバル・レジスタンス」ポンピドゥー・センター(パリ、2020年)、「今、ここ、ルートヴィヒ美術館にて: 共に歩み、共に挑む」(ケルン、2021-2022年)などがある。



撮影：山口聖巴

開催概要

展覧会名：「Chim ↑ Pom展：ハッピースプリング」

主催：森美術館

助成：一般財団法人 日本寄付財団、公益財団法人 大林財団

協賛：吉野石膏株式会社、regist ART / 株式会社実業之日本社、
アディダス ジャパン株式会社、株式会社GO、株式会社パルコ、
ザ ロイヤルパーク キャンパス 銀座8、株式会社UPDATER(みんな電力)

制作協力：前田道路株式会社

企画：近藤健一(森美術館シニア・キュレーター)

会期：2022年2月18日(金) - 5月29日(日)

会場：森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)ほか

開館時間：10:00-22:00(火曜日のみ17:00まで)

* 入館は閉館時間の30分前まで * 会期中無休

* ただし、5/3(火)は22:00まで

* 当館の新型コロナウイルスの感染症対策への取り組みについてはウェブサイトでご確認ください。

<https://art-view.roppongihills.com/jp/info/countermeasures/index.html>



プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

入館料:

	[平日]		[土・日・休日]	
	当日窓口	オンライン	当日窓口	オンライン
一般	1,800円	1,600円	2,000円	1,800円
学生(高校・大学生)	1,200円	1,100円	1,300円	1,200円
子供(4歳~中学生)	600円	500円	700円	600円
シニア(65歳以上)	1,500円	1,300円	1,700円	1,500円

- * 事前予約制(日時指定券)を導入しています。専用オンラインサイトから「日時指定券」の購入が可能です。
- * 当日、日時指定枠に空きがある場合は、事前予約なしでご入館いただけます。
- * 表示料金は消費税込
- * 音声ガイド付チケット(+500円)も販売しています。
- * 東京シティビュー(屋内展望台)、スカイデッキ(屋上展望台)、森アーツセンターギャラリーへの入館は別料金になります。
- * 本展のチケットで、同時開催プログラムもご鑑賞いただけます。

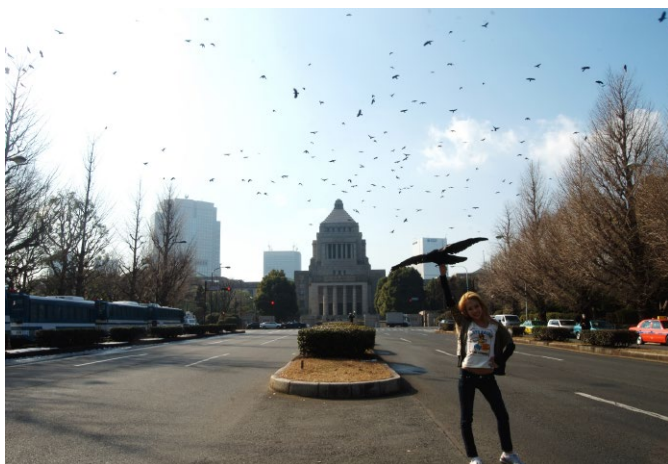
同時開催:「MAMコレクション014:

重力と反転、ミクロとマクロー立石大河亞、イン・シウジェン(尹秀珍)、岩崎貴宏、金氏徹平」

「MAMスクリーン015:ルー・ヤン(陸揚)」

「MAMリサーチ008:突然、顕わになってー東南アジアの美術と建築 1969-1989」

一般のお問い合わせ: Tel: 050-5541-8600(ハローダイヤル) 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum



《ブラック・オブ・デス》 2008年
ラムダプリント、ビデオ
写真: 81 × 117.5 cm、ビデオ: 9分13秒
Courtesy: ANOMALY and MUJIN-TO Production(東京)



「酔いどれパンデミック」 2019-2020年
個人蔵
委託制作: Manchester International Festival and Contact, 2019
企画: Contact Young Curators
Courtesy: ANOMALY and MUJIN-TO Production(東京) 撮影: Michael Pollard

最新のプレス画像は、こちらの URL より申請、ダウンロードいただけます。 <https://bit.ly/3rF3vQL>

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

本展のみどころ

■ 活動初期から、多くの代表作や新作までを一挙に紹介する大型回顧展

本展は「サンキューセレブプロジェクト アイムボカン」(2007年)など初期の代表作、核の問題を扱った《ヒロシマの空をピカッとさせる》(2009年)や《LEVEL 7 feat.『明日の神話』》(2011年)、「ビルバーガー」シリーズ(2016/2018年)など数々の大型作品や、ユーモア溢れる小作品、参加型・体験型作品など代表作を網羅的に紹介します。国際的に活躍するChim ↑ Pomの世界初の本格的回顧展となります。

■ 作家発案による驚きに満ちた展示構成

本展は、作品を年代順に展示する一般的な回顧展とは趣が異なります。作品は「都市と公共性」、「道」、「Don't Follow the Wind」といったセクションに分かれて展示され、作品鑑賞のための動線を複数設けることで展示会の多様な読み解きを可能にします。また、展示空間の演出として展示室を二層構造にし、上層部にアスファルトで舗装した大きな道が出現したり、展示室を丸ごと一室使って、多数の作品を1つの巨大インスタレーションのように構成したりするなど、ダイナミックな展示空間を体感できます。さらに会期中には会場内でイベントやパフォーマンスなども多数行われる予定です。

■ 本展のための新作7点、展覧会場に託児所をオープン

Chim ↑ Pomのセルフ・ポートレートである「スーパーラット」の最新版、2020年のエリイの出産を機に構想された新作サウンド・インスタレーションのほか、Chim ↑ Pomと同世代の子育て事情から発案された、展覧会場内に託児所を開設するアート・プロジェクト《くらいんぐみゅーじあむ》など、新作7点を発表します。

■ 「公共」の概念をみなさんと共に考えます

近年Chim ↑ Pomは、自身のスタジオの私有地内に私道を作り、誰でも通行・利用することができるようにしました。また、台湾では美術館の屋内外に一本の長い道を作り、そこに適用される独自の規則を策定しました。このようにChim ↑ Pomは「道」という主題を通じて「公共性」や「公と個」について私たちに一考を促します。

■ 作品をめぐるさまざまな議論や対話を再検証します

過去にChim ↑ Pomの作品のいくつかは結果的に議論を呼び、特に広島と東日本大震災を主題とする作品は論争に発展しました。本展はこれらの作品について、作品そのものだけでなく、年表や関連資料などの展示や作品にまつわる賛否両論も紹介するなど、複数の視点で論争を再検証します。

■ 東日本大震災から10年、そしてコロナ禍の今、新たに見えてくるものは？

日本では2011年東日本大震災発生以降、より良い社会形成を目指す作家の活動が活発になり、Chim ↑ Pomも複数のプロジェクトを行ってきました。10年を経た今、それらの再検証を試みます。

一方、2016-2017年にメキシコと米国の国境沿いで敢行した「境界」をテーマにしたプロジェクトや、2019年にマンチェスター国際芸術祭で、19世紀に同地で流行したコレラとビールの歴史的関係をテーマにした大型の参加型プロジェクトなどは、図らずしてコロナ禍で顕在化した社会課題を扱っています。そして2020年、緊急事態宣言下の東京を舞台に新作を制作するなど、日本社会を鋭い眼差しで観察しつづけています。本展はこのような彼らの活動について、今日の社会を参照しつつ、議論のプラットフォームになることを目指します。

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

本展の構成

10のセクションと共同プロジェクト・スペースで構成されます。

都市と公共性

Chim ↑ Pomは初期から都市を舞台にプロジェクトを多数行っています。《ゴールド・エクスペリエンス》(2012年)ではゴミ袋をエンターテインメント性溢れる巨大な立体作品に変え、近年では「Sukurappu ando Birudoプロジェクト」(2016-2017年)や《道》(2017-2018年)、「酔いどれパンデミック」(2019-2020年)など、都市論や公共性を論じるものへと発展を遂げています。また本セクションには、「都市を生きる人間の肉体」にも焦点を当てた作品が点在します。Chim ↑ Pomにとって生身の身体そのものは、結成当初から最も基本的な表現手段であり続けています。

道

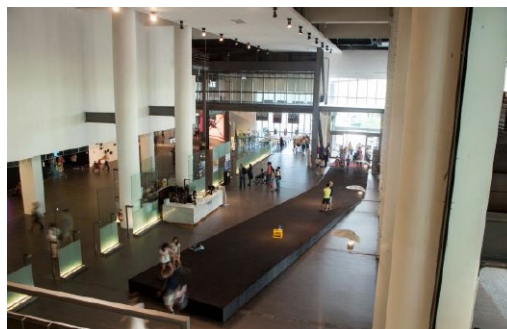
二層構造にした展示室の上層部にアスファルトで舗装した大きな道が現れます。この「道」は、本展のために構想・制作された大規模なサイトスペシフィック・インスタレーションです。Chim ↑ Pomは過去にもアスファルトを用いたプロジェクトを行い、既存の仕組みやルールから独立した空間を作り出し、そこに集う人々の自由意志と自発的なアクションが生む都市の新たな可能性を見いだそうとしました。本展の「道」も、会期中に行われるイベントやハプニングのプロジェクトスペースとして機能し、鑑賞者と一緒により自由に開かれたものに育てていくことが期待されています。

Don't Follow the Wind

2015年から現在まで、東京電力福島第一原子力発電所の事故により放射能で汚染された福島県の帰還困難区域内で開催されている国際展です。Chim ↑ Pomが発案し、自身を含む国内外12組の参加作家による新作が、元住民から提供された数箇所の会場に設置されました。しかし、放射能の除染が進み避難指示が解除されて住民の帰宅が許されるまで、一般の人々は本展を実際に訪れることができないという、“観に行くことができない”展覧会です。本展では外の景色が見える展示室で本プロジェクトを紹介し、来場者に東京の風景を眺めながら福島を今を想像してもらうことを促します。



《ゴールド・エクスペリエンス》 2012年
ターポリン製バルーン、ミクストメディア
650×800×600 cm
Courtesy: ANOMALY and MUJIN-TO Production(東京)
展示風景:「Chim ↑ Pom展」バルコミュージアム(東京)2012年



《道》 2017-2018年 オンサイト・インスタレーション サイズ可変
Courtesy: ANOMALY and MUJIN-TO Production(東京)
展示風景:「アジア・アート・ビエンナーレ2017」国立台湾美術館(台中)
2017-2018年
撮影:前田ユキ



「Don't Follow the Wind」 2015年-
Courtesy: Don't Follow the Wind Committee

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

ヒロシマ

2008年、広島原爆ドーム上空に飛行機雲で「ピカッ」という文字を描いた作品《ヒロシマの空をピカッとさせる》(2009年)。作家の意図は、「平和」という現代日本社会の基盤への無関心の蔓延を漫画的に可視化するというものでしたが、誤解や憶測も混じり、論争になりました。被爆者とその関係者に対して事前告知の不徹底を謝罪した後もChim ↑ Pomは彼らや一般市民と対話を重ね、時に共働し、プロジェクトを継続しています。折り鶴を使った《パビリオン》(2013年-)や《ノン・バーナブル》(2017年)、原爆の残り火をともし続ける《ウィー・ドント・ノウ・ゴッド》(2018年)など、当地を主題にした作品を制作し続けています。



《ヒロシマの空をピカッとさせる》
2009年
ラムダプリント、ビデオ
写真：66.7×100 cm、ビデオ：5分35秒
Courtesy: ANOMALY and MUJIN-TO Production(東京)
撮影：Cactus Nakao

東日本大震災

2011年東日本大震災発生直後、Chim ↑ Pomは震災と津波、原発事故に関する様々なプロジェクトを立て続けに行ないました。《不撓不屈》(2011年)に始まり、《リアル・タイムス》(2011年)、《気合い100連発》(2011年)など彼らの代表作が誕生し、《LEVEL 7 feat.『明日の神話』》(2011年)では、渋谷駅にある岡本太郎の壁画《明日の神話》の右下の壁の余白部分に、福島第一原子力発電所の事故を描いた絵をゲリラ的に設置しました。現在も帰還困難区域内でプロジェクトを継続するなど、10年後の現在でもこのテーマはChim ↑ Pomにとって重要なものです。



《LEVEL 7 feat.『明日の神話』》
2011年
アクリル絵具、紙、塩化ビニール板、ビデオ、ほか
絵画：84×200 cm、ビデオ：6分35秒
所蔵：岡本太郎記念館(東京)
Courtesy: ANOMALY and MUJIN-TO Production(東京)

ジ・アザー・サイド(向こう側)

Chim ↑ Pomは2014年からアメリカの国境問題をテーマとした「ジ・アザー・サイド」(向こう側)のシリーズを手掛けます。タイトルは、アメリカ国境沿いに住むメキシコ側の人々がアメリカを呼ぶときの通称です。2016年には、「リベルタ」(Libertad、スペイン語で「自由」の意)と呼ばれる、メキシコ・ティファナにある国境沿いのスラム地域を訪れ、居住する家族の協力を得て国境の壁のすぐ横にDIYでツリー・ハウス「USA ビジター・センター」を作りました。作家が継続的に取り組むこの「境界」という主題は、移動制限や都市封鎖が行われているコロナ禍の今日、重要性を増しているのではないのでしょうか？



《USAビジターセンター》(「ジ・アザー・サイド」プロジェクトより)
2017年
ジークレープリント
66×100 cm
所蔵：札幌宮の森美術館
Courtesy: ANOMALY and MUJIN-TO Production(東京)
撮影：松田 修

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

May, 2020, Tokyo

2020年5月、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言下の東京で行われたプロジェクト。Chim ↑ Pomは青焼き写真の感光液を塗ったビルボードを都心部の街中各所に設置。「Tokyo 2020」、「新しい生活様式」という文字の部分は感光させず、白く残しました。本作は、日光と影、雨風を援用し、「ステイホーム」のスローガンのもと、緊急事態宣言下の人通りが激減した街の外気や時間を青く焼き付けたものといえるでしょう。明るい青写真が描かれていた2020年の東京の奇妙な現実がシンプルに表現されています。



《May, 2020, Tokyo(へいらっしゃい)―青写真を描く―》
2020年
サイアノタイププリント、ゼラチン、キャンパス、鉄フレーム
175.5×352.3×4.5 cm
所蔵：高橋龍太郎コレクション(東京)
Courtesy: ANOMALY and MUJIN-TO Production(東京)
制作風景：東京、新宿

エリイ

Chim ↑ Pomのメンバー、エリイは、カンボジアの地雷原にて、チャリティーとセレブリティ文化をテーマに地雷爆破と寄付のプロジェクトを敢行したり、結婚制度を社会的に検証すべく、デモ申請を行い自身の結婚パレードを路上で開催するなど、行動によって、世界に存在する根深い社会問題に新たな視点を与えてきました。時にマスメディアにも登場し、ポップアイコンとしても捉えられる一方で、文芸誌で文学作品を連載するなど、その活動と存在感は捉えどころがありません。また、一見するとChim ↑ Pomの顔のようにも思われますが、既存のジェンダー観やフェミニズム論、アーティスト像に当てはまらない、エリイの多様な側面について考察します。



《スピーチ》(「サンキューセレブプロジェクト アイムボカン」より)
2007年
ビデオ
1分53秒
Courtesy: ANOMALY and MUJIN-TO Production(東京)

金三昧

オリジナルデザインのグッズや、どこかナンセンスで使用価値を試すような実験的な「商品」や「作品」を独自で開発・販売するショップのプロジェクトです。一見するとガラクタのように見えるものもありますが、そのほとんどがこれまで完売してきたことから、購買意欲を促す不思議な力が宿ったアイテムだと言えます。本展では館内のミュージアムショップの一角が「金三昧(かねざんまい)」となり、展覧会の一部として紹介されます。

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

くらいんぐみゅーじあむ

Chim ↑ Pomメンバーや彼らと同世代の親の子育て事情、子連れで外出する際に経験するさまざまなバリアから着想を得た新たなアート・プロジェクトとして、会場内に託児所を開設します。子育て中の人々が積極的に美術館を利用し、アートに触れる機会を増やすことが目的です。公園や公道で大声を出して遊ぶことが禁じられ、子供の居場所が公共の場から少しずつ失われていく今、「静謐であるべき場所」としての美術館にあえて子供の遊び声と泣き声を響き渡らせることで、美術業界のみならず社会全体における子育て環境への問題提起を試みます。

*《くらいんぐみゅーじあむ》の営業、予約に関する詳細はウェブサイトでご確認ください。



《くらいんぐみゅーじあむ》イメージ

ミュージアム＋アーティスト共同プロジェクト・スペース

本スペースは、本展実現までのプロセスにおいて、作家と美術館の間でさまざまに生じた立場や見解の相違をきっかけとし、多様な観点からの議論を発展的に深めることを目的とした場所です。以下の作品の展示に加え、アーティストと現代美術館の関係、現代美術の可能性と限界の歴史、表現の自由や美術館の芸術的独立性など美術にまつわる課題からその背景にある幅広い社会課題まで、本展の制作過程で議論してきた問題について多様な専門家を招いて語っていただきます。

展示作品

- ・《スーパーラット(千葉岡君)》(2006年)、映像作品《スーパーラット》(2006/2011年)、Chim ↑ PomのコミッションによるEDI MAKの映像作品《ハイパーラット》(2022年)。

*トーク、プログラムの詳細は決まり次第、ウェブサイトでご案内します。

本スペース鑑賞のお申し込み方法

- ・ 当日予約のみ。森美術館特設カウンター(六本木ヒルズ森タワー53階)にて申し込み受付。完全入替制。ご予約の方には入場予約券と地図をお渡します。
- ・ **アクセス**: 日比谷線「虎ノ門ヒルズ」駅徒歩約10分
- ・ **開場時間**: 11:00~17:00

※個々の作品解説はこちらをご参照ください。

<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/chimpom/04/index.html>

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

関連情報

新作アート・プロジェクト《くらいんぐみゅーじあむ》で、クラウドファンディングを実施中 注目のリターンはオリジナルの「ぬり絵」、コンテストも開催

展示会場に託児所を開設する新作のアート・プロジェクト《くらいんぐみゅーじあむ》では、託児所の運営資金の調達を目的としたクラウドファンディングを実施します。子育て世代がなかなか気軽に美術館に足を運べない当世日本の社会事情に想を得た本プロジェクトですが、ご支援頂く金額によって、託児所を運営できる日数が決まります。目標金額は400万円とし、ストレッチゴールを設定します。支援金額は1,000円から33万円(税込)まで6コースで、リターンもさまざま。なかでも注目のリターンは、Chim ↑ Pom作のオリジナルぬり絵(各コース共通)。提供されるぬり絵データで、思い思いにぬり絵を楽しむのみならず、本プロジェクトの関連イベントとして実施する「ぬり絵コンテスト」に応募することができます。Chim ↑ Pomのほか、会田誠、東村アキコ、河村康輔が審査員として受賞作品を決定します。

クラウドファンディングの募集期間:

2022年1月15日(土) 0:00から2022年3月31日(木)23:59まで

詳細、お申込み:

MOTION GALLERY(モーションギャラリー)のウェブサイト

https://motion-gallery.net/projects/moriartmuseum_chimpom_2022

■ 音声ガイド

Chim ↑ Pomのメンバー6人による作品解説つき。ウェブアプリにてご用意しています。

ナビゲーターは、自らChim ↑ Pomのファンを公言する、和田彩花さんが務めます。

*ご自身のスマートフォンをお使いください。

*スマートフォンやイヤフォンの貸し出しは行っておりません。

ナビゲーター: 和田彩花 ガイド件数: 全12件

解説時間: 約30分 解説時間: 日本語、英語 料金: 500円(税込)



和田彩花さんコメント

Chim ↑ Pomさんの作品との最初の出会いは大学で美術史を学んでいた当時、授業で観た映像作品《気合い100連発》でした。その後、ワタリウム美術館の「Don't Follow the Wind - Non-Visitor Center」展でChim ↑ Pomさんの作品を実際に観たのですが、自身の体験や、報道を通して見る被災地の世界とは違う現実がそこにはあって、ハッとしました。現代アートって面白い! Chim ↑ Pomってスゴイ!と。以来、彼らの`追っかけ`になりました。普通に生活しているだけだと気付けないことを、作品を通して気付かせてくれる。Chim ↑ Pomさんの視線の先には、私たちが眼差さないといけないう`何か`がある。そんな彼らの作品が大好きです。森美術館の展覧会では、私もまだみたことのない、初期の作品も展示されるとのことで、とても楽しみにしています。

プロフィール

和田彩花(わだ・あやか)

1994年8月1日生まれ。群馬県出身。アイドル。2009年4月アイドルグループ「スマイレージ」(後に「アンジュルム」に改名)の初期メンバーに選出、リーダーに就任。2010年5月「夢見る15歳」でメジャーデビューを果たし、同年「第52回日本レコード大賞」最優秀新人賞を受賞。2019年6月18日をもって、アンジュルム、およびHello! Projectを卒業。アイドル活動を続ける傍ら、大学院でも学んだ美術にも強い関心を寄せる。特技は美術について話すこと。特に好きな美術の分野は、西洋近代絵画、現代美術、仏像。趣味は美術に触れること。

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

■ 展覧会カタログ

第1巻(LPレコード版)

内容:

論考(執筆者:近藤健一)、セクション解説、作品解説、作品図版、作家イラスト、LPレコード(A面:本展オーディオガイド音声抜粋 / B面:涌井智仁によるリミックス)

サイズ: 37.5 × 37.5 cm **ページ数:** 48ページ+大型ポスター **言語:** 日英バイリンガル

制作: カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 美術出版社書籍編集部 **発行:** 森美術館

発売日: 2022年4月初旬予定

定価: 2,450円(税込)

販売場所: 「森美術館 ショップ 53」(六本木ヒルズ森タワー53階)、「森美術館 ショップ」(六本木ヒルズウェストウォーク3階)、森美術館オンラインショップ

※第2巻は、展覧会期終了後発行予定です。

展示風景、会期中に実施されるイベントの活動記録なども含めた、完全記録集です。

■ KANE-ZANMAI オリジナルグッズ

Chim ↑ Pomのショップ・プロジェクト「かねざんまい金三昧」が、展覧会会期中、「森美術館 ショップ 53」の一角に登場。本展オリジナルの新作グッズのほか、さまざまなアイテムが並びます。

*金額は全て税込み、画像はイメージです。

- ・ ロンT(2色:白、ライラック/4サイズ:M、L、XL、XXL) 各8,250円
 - ・ トートバッグ(3色:イエロー、ブルー、ピンク) 各3,190円
 - ・ 缶バッジ(9種) 各550円
 - ・ 落書きノート 1,980円
 - ・ キーホルダー(Chim ↑ Pom | 2色:パープル、イエロー) 各1,540円
 - ・ キーホルダー(KANE-ZANMAI) 1,650円
 - ・ Pake®ジッパーバック 1,100円~
 - ・ 「WE ARE SUPER RAT」Tシャツ(2色:白、黒/4サイズ:M、L、XL、XXL) 各4,950円
- ほか



缶バッジ



ロンT



「WE ARE SUPER RAT」Tシャツ



トートバッグ



キーホルダー(KANE-ZANMAI)

お問い合わせ: 森美術館ミュージアムショップ

Tel: 03-6406-6118 営業時間: 10:00-22:00(祝日を除く火曜日は17:00まで) ※美術館の開館時間に準ずる

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

森美術館「Chim ↑ Pom展」同時開催小プログラムのご案内

会期：2022年2月18日(金)－5月29日(日) 会場：森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)



MAMコレクションは、森美術館の収蔵品を、
多様なテーマに沿って順次紹介する展覧会シリーズです。

MAMコレクション014:

重力と反転、ミクロとマクロー

立石大河亞、イン・シウジェン(尹秀珍)、岩崎貴宏、金氏徹平

主催：森美術館

企画：椿 玲子(森美術館キュレーター)

<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/mamcollection014/index.html>



立石大河亞
《富士ハイウェイ》
1992年
油彩、キャンバス
194×194 cm



MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから
選りすぐりのシングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。

MAMスクリーン015:

ルー・ヤン(陸揚)

主催：森美術館

企画：徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/mamscreen015/index.html>



ルー・ヤン(陸揚)
《物質界の大冒険—ゲームプレイ動画》
2020年
ビデオ
26分22秒



MAMリサーチは、アジアの現代美術を中心に特定の作家や動向に着目し、
歴史的、社会的な文脈とともに考える資料展示です。

MAMリサーチ008:

突然、頭わになって— 東南アジアの美術と建築 1969-1989

主催：森美術館

企画：セン・ユージン、シャビール・フセイン・ムスタファ、ジョリーン・ロー、
チェン・ジアユン(ナショナル・ギャラリー・シンガポール)、
熊倉晴子(森美術館アシスタント・キュレーター)

企画協力：ナショナル・ギャラリー・シンガポール

<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/mamresearch008/index.html>



ホセ・マセダ
《カセット100》
フィリピン文化センター(マニラ)1971年
Courtesy: フィリピン大学音楽民族学センター
撮影: ナサニエル・グティエレス

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp